

みはま歴史文だより

The Letter from Mihama Town Museum of History and Culture

TOPIC

- ・歴史文化館の第4回企画展は、「耳別氏、若狭に起つ」
- ・平成29年度歴史フォーラム、開催決定
- ・ワークショップ「みはま学芸員」養成塾2017、今年も開講します
- ・奈良大学文学部文化財学科：坂井ゼミ一行が来たる
- ・Event Guide（行事のお知らせ）、事業報告、みはま歴史文おもしろ展示品

平成29年9月30日発行

● 編集・発行 ●

美浜町歴史文化館

〒919-1138 福井県三方郡美浜町河原市8-8

TEL 0770(32)0027 FAX 0770(32)0615

歴史文化館の第4回企画展は、

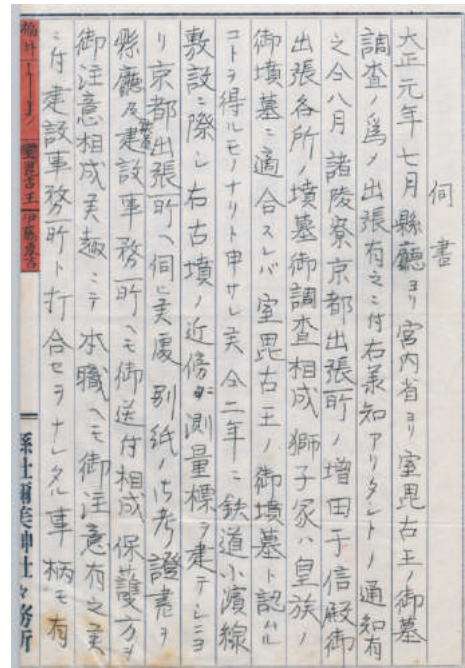
「耳別（みみのわけ）氏、若狭に起（た）つ」

歴史文化館の第4回企画展は、当地の古代豪族「耳別氏」を取り上げ、平成29年九月三〇日から一二月一七日まで開催します。

耳別氏は日本最古の歴史書と言われる『古事記』開化天皇段にその名が見え、日子坐王（ひこいますのみこ）の子の一人、室毘古王（むろびこのみこ）の末裔として系譜づけられています。平城宮から出土する奈良時代の木簡には「別君大人（わけのみきみうし）」という人物名が記されており、実在したと考えられる氏族ですが、残念ながら史料に見えるのはこの程度で、どのような豪族であったのか、実はよくわかっていません。今回の企画展では室毘古王や耳別氏にまつわる史料や写真などを通じて耳別氏の足跡を辿りたいと思います。

今回の企画展の見どころの一つは、宮内公文書館が所蔵する『福井県室毘古王墓調査』という大正から昭和初期にかけての書類綴り（複写資料）が初めて美浜町で公開されることです。

この書類から、地元名士による獅子塚古墳を室毘古王の墓として陵墓の治定を宮内省に働きかけた活動の一端や、歴史学者・増田于信による三度に及ぶ現地



『福井県室毘古王墓調査』（一部） 宮内公文書館所蔵

調査や考証を経て、それでも獅子塚古墳が陵墓として治定されなかったという動向をうかがうことができそうです。今日で言うところの古墳保存の取り組みとして高く評価されることです。企画展では、明治年間に獅子塚古墳から出土したという敦賀郷土博物館所蔵の円筒埴輪や、井田晴彦氏が撮影した昭和十年代の獅子塚古墳の古写真も展示されます。

また、今回は粟東市教育委員会のご協力により、滋賀県では唯一の出土となる角杯形須恵器（小槻大社十号墳出土）が展示されます。当地の獅子塚古墳や興道寺窯跡からも角杯形須恵器が出土していますが、企画展ではぜひ興道寺窯跡の角杯と近江の角杯を見比べていただきたいと思います。そして、このような特徴的な文物を通じて耳別氏についても考える場になりたいと思います。

皆様、お気軽にお運びください。

平成二十九年度 歴史フォーラム、開催決定

十一月三日（金・祝）、歴史文化館にて若き研究者たちの登壇門として定着し、例年、町内外から多くの皆様にご参加いただいている美浜町歴史フォーラムが今年も当館を会場に開催されます。

今回の歴史フォーラムは、第四回企画展と同じくテーマは「耳別氏、若狭に起つ」。当地の古代豪族、耳別氏や若狭の古代豪族について考えます。今回のフォーラムも一線で活躍する研究者たちをお招きし、講演と座談を行います。それぞれの演題、講師は次のとおりです。

会場の都合もあり、今回のフォーラムも事前申込制（定員六〇名）となっておりますが、前回の歴史フォーラムでは定員を大幅に超えるお問い合わせがありましたので、参加を希望される方はお早めにお申し込みいただければと思います。

- 一、「室毘古王と若狭耳別」
美浜町教育委員会 松葉竜司さん
- 二、「耳別氏と古代豪族論」
明治大学文学部 中村友一さん
- 三、「継体大王時代の近江と若狭」
高島市教育委員会 宮崎雅充さん
- 四、「評制の成立と古代寺院」
東京医療保健大学 三舟隆之さん
- 五、「若狭の国の日向神話」
明治大経営学部 堂野前彰子さん
- 六、座談「耳別氏、若狭に起つ」

参加 無料



奈良大学文学部文化財学科・坂井ゼミ一行が来たる

平成二九年九月九日(土)・十日(日)にわたり、奈良大学文化財学科・坂井秀弥先生とゼミの学生・OB二十名が若狭に巡検に来られ、各地の遺跡や博物館を見て回りました。十日には当館と興道寺廃寺にも見学に来られ、館内の見学では考古学専攻のゼミということもあって展示資料を熱心に熟覧する学生の姿も見受けられました。

坂井先生は文化庁調査官時代の平成一九年五月一日に調査指導のため興道寺廃寺に来跡されており、十年ぶりに遺跡を訪れた今回は、その後の調査の進捗を当館学芸員に確認されていきました。

当館が開館して一年以上が経ちますが、大学の研究室が見学に来られるのは初めてのことです。今後、いろいろな大学の研究室の皆様にも当館をご利用いただければ幸いです。



ご見学の様子



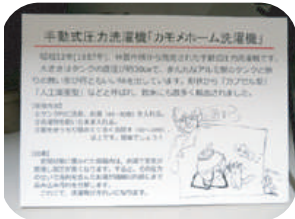
ワークショップ みはま学芸員養成塾二〇一七

今年も開講します

高島市歴史民俗資料館の白井忠雄学芸員を講師に迎え、昨年度に引き続き、「みはま学芸員」養成塾が今秋二回行われます。

一回目の講座は十一月二十五日(土)、マキノ資料館と当館の見学を通じて民具(民俗資料)への理解を深めながら解説文を考え、一二月一六日(日)の二回目の講座では担当する展示品について解説パネルを作成し、受講生の皆さんの前で展示品の解説も披露していただきます。この講座を受講すると一年間有効の「みはま学芸員」の認定書が当館から発行されます。

実際に作成していただいた解説パネルは当館の展示でそのまま活用させていただきますので、昨年度に受講された方も、初めての方もお気軽に受講していただければ幸いです。詳しくは十月に配布予定のチラシをご覧ください。



昨年度に作成された解説パネル



昨年度の講座の様子

Event Guide (行事のお知らせ)

みはま土曜歴史文講座 (第6～8回講座)

■第6回講座

日時 平成29年10月7日(土) 8:30～12:00
 演題 古代豪族、耳別氏の足跡を辿る(現地探訪)
 講師 当館学芸員 松葉竜司さん

■第7回講座

日時 平成29年11月18日(土) 10:00～11:30
 演題 埴輪からみた美浜と若狭の古墳(仮)
 講師 勝山市教育委員会 学芸員 藤本康司さん

■第8回講座

日時 平成29年12月9日(土) 10:00～11:30
 演題 若狭と食(仮)
 講師 福井大学教育学部 教授 門井直哉さん

事業報告

- 7/22(土) みはま土曜歴史文講座 第3回開講
- 8/6(水) みはま土曜歴史文講座 第4回開講
- 9/9(土) 第3回企画展 展示解説
- 9/10(日) 奈良大学文化財学科坂井ゼミ一行見学
- 9/16(土) みはま土曜歴史文講座 第5回開講

みはま歴史文おもしろ展示品(6)

須恵器の杯G(すえきのつきじー)

全国各地で7世紀のごく一時期の短い期間に作られた特徴的な形をした須恵器があります。学術名で杯G(杯G蓋)と言われるもので、蓋の外側には小さなたまみもち、器と接するところにかえりがあります。第3回企画展では、杯Gが当館に大集合しました。

この土器、若狭地方ではあまり出土例がありません。しかし、敦賀半島周辺に分布する石室に石棚を備えた古墳からはなぜか杯Gが出土しています。石棚との関係ははっきりしませんが、石棚という伝統的なモノだけでなく、当時の流行りの土器も取り入れた敦賀半島周辺の豪族の先進性が注目されます。



浄土寺2号墳出土杯G・杯G蓋

歴史文化館のご案内

- 【開館時間】9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 【休館日】毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)・その他
- 【入館料】大人…100円(20名以上の団体の場合 50円) 名以上の団体の場合 無料)
- ※ 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳を所持する方、就学前の幼児は無料。

編集後記

7月1日から文化遺産カードの新カード配布が始まると、待っていましたとばかりに次々とカード収集のお客様においでいただきました。また、みはま土曜歴史文講座も熱心に受講していただいています。チラシだけでなく、フェイスブックなどSNSによる情報発信のたまものかなと思っています。そして、当歴史文化館では新たにtwitterをはじめました。より多くの方に当館のことを知っていただけるのでは、と期待しているところです。(K.Y) (2)